全国会議　6月29日

市役所302会議室で行われた「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」を視聴しました。昨年に引き続き今年もコロナ対策ということで動画が配信されましたので、いきいき市民推進チーム☆輝くSUWAのメンバーと3名の議員、担当課職員と一緒に視聴しました。「男女共同参画社会基本法」の交付・施行日である平成11年6月23日にちなみ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、週間の主な行事としてこの会議が開催されています。今年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズは「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ」です。今年度は募集対象者を15歳から20歳までのユース世代に限定した新たな取り組みだったようです。また、パネルディスカッションは「「いま」を生きるみんなで築いていく男女共同参画社会とは?」というテーマで、若年層・若い世代の人たちの意見・考え方を聞き、男女共同参画・女性躍進の推進について考えました。時代の価値観に併せて柔軟に考え方を変えていくことの必要性、時代の変化に順応していくには行動を起こさなくてはいけない、一歩を踏み出すことをしていかなくてはならないと痛感しました。（岩波万佐巳）

第６次総合計画審議会に出席して

令和4年から令和8年、諏訪市のあるべき姿と現在及び未来に想定される課題を明らかにし、目指すべき方向性を示す第6次諏訪市総合計画。その内容を審議する諏訪市総合計画審議会に、男女共同参画の立場から委員として出席いたしました。

福祉、学習、環境、インフラ、産業、防災、参画、公募市民、学識経験者の、男性 10 人、女性7人で書面開催1回を含め4回開催。企画政策課からの総合計画案を基に各分野の委員からの意見と、一般市民7人からの50 件のパブリックコメントという様々な意見提案を取りまとめ、11 月 10 日市長に答申し、12 月市議会に議案として提出されました。最終日に各委員から一言ずつ述べましたが、公募市民の一人から第7次の際には企画の段階から参加したいとの発言があり、さすが応募しただけの事はある人だなと感心致しました。

次回の際は皆さんも是非ご参加下さい。（遠藤惠美子）

編集後記

今年度、「ともに生きる諏訪セミナー」「ともに生きる諏訪市民大会」は感染症対策として中止とさせて頂きましたが、定例会は毎月行うことができました。「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」「日本女性会議2021in甲府」は市役所よりオンライン会議で参加しました。勉強会、三者懇談会も開催し前向きに活動することができ、現状を知る事の大切さを再認識しました。最近では、SDGs、ジェンダー、LBGTなど、新聞やテレビ等で報道されていて身近な言葉となりました。男女の差別を解消し個々の能力が活かされ、安全で安心して暮らせる社会を目指すことが世界共通の課題とされています。その中で「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」でも貢献できるように今後も活動を続けていきたいと思います。（中嶋博美）

いきいき市民推進チーム☆輝く SUWA　会員募集中!!

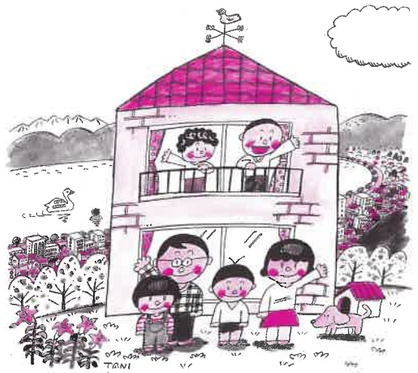
私たち「いきいき市民推進チーム☆輝く SUWA」は、性別にとらわれず互いに人権を尊重し、個性と能力を発揮して社会のあらゆる分野に対等な構成員として参画でき、ともに責任を担う「男女共同参画社会」の実現を目指し取り組んでいます。
社会や地域との係わりを持ち、自分らしくいきいきと生きたい方、男女共同参画社会に関心がある方ならどなたでも大歓迎!!
日頃の活動が難しくても、講座の参加だけでもOK !!お気軽にお問い合わせください。

ご意見・お問い合わせ ◆諏訪市地域戦略・男女共同参画課　男女共同参画係　TEL52-4141 内線289

第28号　男と女（ひと　ひと） 手をつなぎ すてきなまちづくり　2022年2月1日発行

男女共同参画情報紙

いきいきパートナー



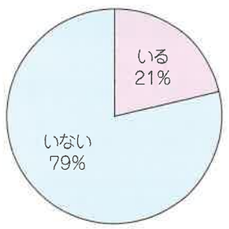
私たち「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」は、市と協働して男女共同参画社会の実現を目指し取り組んでいます。今年度に行った主な活動について紹介します。

市内企業へ出産・育児に関するアンケート実施　7月

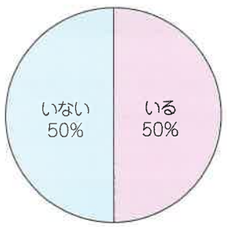
就業人口の減少や共働き世帯の増加など、今や女性の活躍は多くの企業でも必要不可欠となっています。「女性活躍推進法」等の整備が進む中、2021 年 6 月、男性の育児休業促進策を盛り込んだ「改正育児・介護休業法」が設けられ、「男性産休」の取り組みが 2022 年 4 月 1 日より始まります。

男性の育児休業が広がらない理由には、「男は仕事、女は育児」といった性別役割分担の意識や収入減への不安など、様々な要因が指摘されています。市内における企業の「出産・育児に関する取り組み」の状況を把握し、今後の我々の意識啓発活動に活かしていきたいと、2021 年 7 月に市内企業（製造業）21 社にアンケートをお願いしたところ、14 社から回答をいただきました。

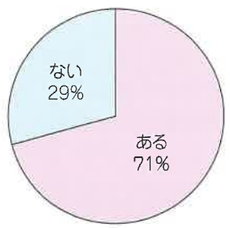
女性管理職はいますか。



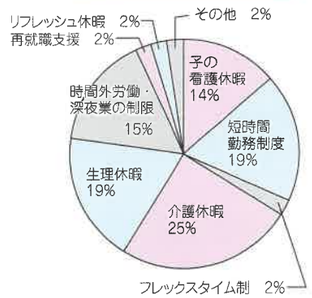
「子育て応援宣言」をしていますか。



医師の指示又は妊活者や妊婦から勤務形態等の申し出があった場合の措置はありますか。



育児休業のほかに貴社で取り組んでいる制度や研修はありますか。



■産前・産後の休業　制度のとおり実施…7 割　パートも同様に実施…8 割
■育児休業取得　女性…10 割　男性…2 割
■男性産休の取り組み　前向きに取り入れる…3 割　現状は難しい…7 割
※コロナ禍の中　在宅勤務、再就職支援、リフレッシュ休暇、研修事業の取り組みは　1 社のみ

女性活躍への取り組み　9月9日

7月のアンケートにご協力いただいた企業の中で、積極的に「女性活躍推進法」等に取り組んでいる、株式会社共進の五味社長にお話を伺いました。

10年前、自身が社長に就いた時点で「経営理念」と「経営方針」をしっかり打ち立て、それに基づいての会社経営を行い現在に至っています。

「仕事を通じて社会に貢献し、社会から必要とされる企業となる」との経営理念のもと、経営方針である「法令を遵守し、透明性の高い経営をする」「人間性及び能力の向上に努め、常に改善の意識を持ち、質の高い仕事をする」これらを伺えば「女性活躍推進法」等に次々と取り組む姿勢が頷けます。

①平成27年に初の男性育児休業休暇取得者
②子育てサポート企業「くるみん」
③職場いきいきアドバンスカンパニー
④子育てママの就業相談会
⑤おやこ会社見学会　⑥仕事と介護の両立支援

「法令遵守に力を注いだため、ほぼ全ての分野で法令遵守が当然の会社になりました」この言葉にすべての答えがあると理解できました。（鴨志田明子）

お話を聞いていて、特別休暇を取得しやすい会社であり、誰もが安心して勤められる、理解ある社長だと思いました。このような企業が増えていくことに期待いたします。（中嶋博美）

三者懇談会　10月14日

今回、生活改善グループ連絡協議会と女性市議会議員をお迎えし、市民推進チームとの三者で「郷土食や農業の現況」というテーマについて懇談会を開催しました。改善グループの皆さんがかかわっている生産物は、バラ、アネモネ、リンドウなど花き栽培が中心となっています。農産物としては、アスパラ、ニラ、トマト、リンゴ、無農薬レモンなどを作っています。後継者不足ですが、県外では、バラ、カーネーションが全国でもトップクラスの品質を保っていますが、コロナ禍により都心の市場向けの出荷の減少により打撃を受けている中で、他の農産物への転換などのご意見を伺いました。

郷土食としては、鮒の雀焼き、ワカサギの南蛮漬け、凍み豆腐の玉子とじ、のた餅などがあげられ、今度皆さんと作ってみたいとの話で盛り上がりました。（白井千智、坂本あけみ）

男女共同参画パネル展　6月23日～28日

男女共同参画週間（6月23日～29日）にあわせて毎年行っている男女共同参画パネル展を、駅前交流テラスすわっチャオにて展示開催しました。今年は「避難所体験をすすめていきましょう」「若年層を対象とした性暴力」のパネルを展示しました。

日本女性会議　10月22日・23日

日本女性会議2021in甲府が開催されました。昨年に続いて、リモートでの開催となりました。市役所302の会議室で、いきいき市民推進チームのメンバー、市の担当部課長および職員が出席しました。

1日目　基調講演「すべての人が輝く令和の社会へ」

内閣府男女共同参画局長　林　伴子さん

なかなか男女共同参画が進展しない現状について、色々と問題点をあげられました。世の中にあっちこっちで、昭和の時代の習慣や考え方が残っていること。データをあげて示されました。このままでは国際社会に対して恥ずかしい現状である。①意識②制度③慣行の3点をあげて改革していく重要性を指摘されました。最後にこの会議がそのリード役になり、各地で裾野を広げることを望まれました。

シンポジウム

日本女性会議 38 年目の総括と未来
～日本女性会議 2021 in 甲府からの提案～

会議の前に今まで開催された37回の都市に対してアンケートがなされ、それを上野千鶴子さんと学生が検討した結果を話されました。次に2017苫小牧、2018金沢、2019さの、2020あいち刈谷、2021甲府の各実行委員長がリモートで参加し、各地の会議の総括がなされました。

今後の日本女性会議に対して、参加する人、行政、民間企業が協力すること。そして、もっと若い人、子育て中の人、学生を入れて開催すること。リモート、SNSを利用し、SDGsを考慮し、この会議を発展させること。（守屋輝代）

2日目　パネルディスカッション

第7分科会
「未来へつなげる「農業・食」の魅力」

山梨県内で大規模農場を経営する方、移住してきてぶどうの販売をしている方、山梨でのボランティアをきっかけに移住して野菜栽培を行っている方、地元出身で野菜ソムリエで農産物のPR・地産地消・食育活動をしている方それぞれから、自身が事業に取り組んだ経過や実績・今後の方向性についてディスカッションがなされました。山梨県は自然にも恵まれ、東京から約1時間、立地条件も良く、移住者を受け入れる風土があり、農業も様々な手法で発展しているんだと感じました。女性も大いに活躍していて頼もしい限りです。果たして諏訪ではどのようなことができるのか？考えていかなくてはならないと思います。（岩波万佐巳）

第9分科会　「生まれてから死ぬまで地域でくらすために」

「生まれてから死ぬまで住み慣れた地域で暮らしたい」「暖かく居心地のいい場所で暮らしたい」人々のそんな願いを叶えたいと活動しているパネリストたちの話の中から、自らが暮らしたいところで暮らし続けるために地域をどうすればいいのか、何ができるか考えるディスカッションでした。まず地域をよく知ること、自分の活動している情報を発信して他と交流しながら、活動が孤立しないように連携していくこと。一人の活動からその周りに大勢の人が集まっていく、このような関係が多くの地域に広まっていけばいいのではないかと締めくくられました。（沖野冨美子）